

分野 1 : 北米諸国との政治分野での協力推進

中期目標 :

日米及び日加が直面する政治面での共通の諸課題についての両国政府間の緊密な連携を一層強化する。

過去3年度（令和5～7年度）の主な成果	課題及び今後の方向性
1【共通の諸課題における日米・日加両政府間の協力関係の進展】 ● 日米同盟は日本の外交・安全保障政策の基軸である。バイデン政権及びトランプ政権の双方に対し、多くの要人往来や電話会談などを通して首脳・外相間を含む幅広いレベルで信頼関係を構築し、共通の諸課題に関する協力関係を強化してきた。 ● 第2期トランプ政権発足後は、電話会談も含め10回の首脳会談、8回の外相会談を行い、あらゆるレベルで緊密な意思疎通を維持した。特に、令和7年10月のトランプ大統領の訪日及び令和8年3月の高市総理大臣の訪米は、両首脳間の信頼関係を一層強固なものとするとともに、日米関係の更なる強化や自由で開かれたインド太平洋（FOIP）の推進などについて確認する機会となった。 ● 日加は共にG7メンバーであり、普遍的価値（自由、民主主義、基本的人権、法の支配、市場経済）を共有するインド太平洋地域の重要なパートナーである。カーニー首相就任後は、4回の首脳会談、5回の外相会談を実施した。特に、令和8年3月のカーニー首相の訪日の際には、日加関係を「包括的戦略的パートナーシップ」に格上げし、首脳間として約20年ぶりとなる共同声明を発出した。 2【日米・日加間の相互理解の進展】 ● 「在米日系人リーダー招へい」、「在加日系人リーダー招へい」、「マンスフィールド研修計画」、対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」などのプログラムを実施し、重層的な人的交流を促進した。また、モンタナ大学における「マンスフィールド記念日本・インド太平洋研究チェア」の設置などを通じて、米国における親日派・知日派の育成に努め、日米・日加間の相互理解の進展に寄与した。	1【共通の諸課題における日米・日加両政府間の協力関係の進展】 ● 激動する国際情勢の下で外交の重要性が一層高まる中、強固な日米同盟は、日本の外交及び安全保障の基軸であり、インド太平洋地域の平和と安定の礎である。首脳・外相間では、累次の会談を通じて、地域及び世界の平和と安定のため、日米が手を携えて協力していくことを確認してきており、今後も幅広い分野での協力を進め、同盟関係の一層の強化に努める。 ● 普遍的価値を共有するG7のメンバーであり、インド太平洋地域における重要な包括的戦略的パートナーであるカナダとの協力関係を進展させることは、同地域の安全保障を確保する上で極めて重要である。今後とも、政府ハイレベルでの対話を継続し、「包括的戦略的ロードマップ」に基づき、日加関係を戦略的に深化させていく。 2【日米・日加間の相互理解の進展】 ● 日米・日加間の相互理解をより一層進展させるため、米加政府・議会関係者、有識者、学術関係者、青年、日系人を対象とした招へい・交流プログラムを実施し、重層的な人的交流を通じた日米・日加間の相互理解を引き続き促進する。

分野 1 : 北米諸国との政治分野での協力推進

参考 :

- ・ 外交青書（第 2 章第 3 節：[令和 6 年版](#)、[令和 7 年版](#)、[令和 8 年版](#)）
 - ・ [米国](#)
 - ・ [カナダ](#)
 - ・ [日本・カナダ包括的戦略的パートナーシップに関する共同声明（仮訳）](#)
 - ・ [日本・カナダ包括的戦略的ロードマップ](#)
- ＜二国間会談＞
- ・ [日米首脳会談、署名式、ワーキング・ランチ](#)（令和 7 年 10 月 28 日）
 - ・ [日加首脳会談](#)（令和 8 年 3 月 6 日）
 - ・ [高市内閣総理大臣の米国訪問](#)（令和 8 年 3 月 18 日～21 日）

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
 日米の首脳・外相会談数（電話会談含む）	10 回	11 回	16 回
 日加の首脳・外相会談数（電話会談含む）	6 回	8 回	8 回
 米国における対日世論調査結果（日本を友邦として信頼できると肯定的に回答した割合）	88%	97%	98%